

平成29年度学校評価総括評価表

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策	
		評価指標と活動計画	評価			
1 学校運営の充実	(全体レベル) (1) 教職員研修を充実し、意識改革を図るとともに教育観・使命感の確立に努める。 (2) 地域の期待や時代の要請を視野に入れ、教育環境を整備し、特色ある学校づくりに努める。 (3) 教職員相互の協力体制を築き、校内組織が有機的に機能する学校運営を推進する。  (詳細レベル) ①教職員研修の充実 ②本校教育への理解と関心を高めるための積極的な働きかけ ③教職員間の協力体制の強化 ④学校行事の公開	<b>評価指標</b> ①職員研修会の実施回数 6回 (10回) ②-1 体験学習の参加者数 380名 (345名予定) 体験入部の参加者数 300名 (281名予定) ②-2 P T A総会・学年部会への参加率 30% (28.3%) P T A清掃活動を実施 年1回(1回) ②-3 学校ホームページの更新回数およびアクセス数 350回 (334回) 130,000 アクセス ②-4 マスコミなどによる学校活動の広報 415回 (412回)  ③職員間協力度 90% (100%)  ④-1 学校行事の新聞掲載回数 15回 (15回) ④-2 文化祭来場者 1000名 (1254名)  ⑤-1 各種ボランティア活動参加 300名 (310名) ⑤-2 清掃活動参加 (地域や校内を含む) 2,000名 (2,010名)	<b>評価指標の達成度</b> ①職員研修会の実施回数 13回 ②-1 体験学習の参加者数 364名 体験入部の参加者数 261名 ②-2 P T A総会・学年部会への参加率30.2% (28.3%) P T A清掃活動を生徒合同247名で8月20日実施 ②-3 学校ホームページの更新回数およびアクセス数 587回 161,220アクセス ②-4 マスコミなどによる学校活動の広報 331回  ③職員間協力度 100%  ④-1 学校行事の新聞掲載回数 16回 ④-2 文化祭来場者 775名  ⑤-1 各種ボランティア活動参加 310名 ⑤-2 清掃活動参加 (地域や校内を含む) 2,050名	<b>総合評価</b> B  (所見) ① 従来の「人権HR活動公開授業・研究協議」「人権映画会」に加え、家庭クラブと人権委員会が連携した活動や、夏期休業中に「校外職員研修」などの新たな試みを実施した。また、コンプライアンス研修、スマートフォンやSNSの利用に関する講演会、SPH最終発表会、タブレット講習会、日商簿記講習会など、多様な研修会を実施した。  ②-1 体験学習を8月上旬に設定し、体験入部と日を分けたため、他校との重なりもあり参加人数が減少した。しかし、本校を第1志望とする中学生の参加が増えたかと思われる良い面もあった。来年度も同様に行いたいと考えている。 ②-2 P T Aへの参加を促すためホームページの活用や事前の広報に努めたい。保護者の清掃活動への参加は、活発だった。 ②-3 職員間で学校ホームページの更新が定着してきている。また、学校での出来事も定期的にアップされ、アクセス数は大幅に伸びている。 ②-4 学校活動は活発であり、広報も充実している。  ④-2, ⑤-1, 2 各種ボランティア活動参加数、清掃活動参加数においては目標数を上回ることができたが、文化祭来場者は昨年を下回った。	① 教職員の資質向上を目指し多様な取り組みが実施できている。今後とも継続してほしい。  ②-1 体験学習が科学技術高校等専門高校と重ならないように配慮する。  ②-3 ホームページなどをますます充実させる。  ③ 職員間協力度については、今後ともこの協力体制を維持してもらいたい。	① 現在取り組んでいる有効な研修を継続するとともに、これからの教師に求められる資質・能力を見極めながら、適切な研修を実施する。  ②-1 市内の専門校との日程調整を行い、参加人数の増加を図りたい。  ②-2 他の課と連携し学校行事の広報に努めたい。また、案内文書は、生徒に配布し家庭へ持ち帰るよう指導する必要がある。  ③ 校務分掌や各学年に計画力と実行力のある主任を置き、協働的な組織体となるよう今後とも努力する。  ④-2 文化祭来場者数については、生徒会を中心にさらなるアピールに努めたい。専門高校としての特色ある学校祭を目指し、さらなる工夫・改善を図っていききたい。
		<b>活動計画</b> ①各学期毎に職員の研修会を実施し職員の資質向上を図る。 ②-1 早めに中学校へ周知し、積極的な参加を呼びかける。 ②-2 P T A総会の日程や学年部会の内容の充実を図る。各種案内が確実に保護者に届くようにする。 ②-3 ホームページシステムの積極的な利用、広報に努める。 ②-4 ホームページ、マスコミなどを活用し学校の情報を積極的に広報する。 ③ ホウ・レン・ソウを徹底するとともに課単位によるミーティングを行い、業務遂行のための共通理解を深める。 ④-1 学校行事の取組を積極的にマスコミなどにプレスリリースする。 ④-2 文化祭の公開を実施し地域や他校生・中学生との交流を図る。ホームページ等で積極的に情報を発信する。 ⑤-1 地域が元気になる活動、各種ボランティア活動に積極的に取り組む。 ⑤-2 環境問題に興味関心を持たせるとともに、自主的に清掃活動を実施させ、物心両面からの美化活動に努める。	<b>活動計画の実施状況</b> ① 教育委員会によるコンプライアンス研修及び人権研修をはじめ、外部講師を招いて各種講習会を実施することにより、職員の資質向上を図った。 ②-1 早めに中学校へ周知し、積極的な参加を呼びかけたが、当日欠席も多く、昨年よりも参加人数は減った。 ②-2 入学式でP T A総会の日程を文章で配布して案内した。 ②-3 ホームページシステムの積極的な利用、広報に努めることができた。先生方も更新回数が増加してきている。 ②-4 ホームページ、マスコミなどを活用し学校の情報を積極的に広報を行っている。 ③ 各課とも、必要に応じて勤務時間外であってもミーティングを実施し、業務遂行のための共通理解を深めた。			

平成29年度学校評価総括評価表

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策	
		評価指標と活動計画	評価			
2 学習指導の改善	(全体レベル) (1) 生きる力を育むため、基礎・基本の確実な定着を図り自己教育力を高める。 (2) 確かな学力の育成を目指し、学習内容の厳選・創造及び指導方法の工夫・改善を行う。 (3) 個性の伸長を図り、専門的な知識・技術を習得させ、スペシャリストへの道を拓く。  (詳細レベル) ①授業時数の確保 ②授業技術の向上 ③各種資格取得の奨励 ④自己学習力の育成 ⑤实际的・体験的な学習の充実・発展	<b>評価指標</b> ① 自習率 1%以下 (0.2%) ② 授業満足度 80% (80%) ③-1 全商検定3種目以上1級合格者 50名 (46名) ③-2 技能奨励賞 60名 (57名) ③-3 日商簿記検定2級合格 20名 (14名) ③-4 基本情報技術者試験合格 3名 (1名) ③-5 ITパスポート試験合格 5名 (3名) ③-6 建設業経理士2級合格 20名 ④-1 図書館利用者数 5,500名 (5,037名) ④-2 一人あたり貸出冊数 2.5冊 (2.4冊) ④-3 図書館通信の発行回数 12回 (12回) ⑤-1 地域連携活動テーマ数 11テーマ (11テーマ) ⑤-2 ビジネスアイデアコンテスト参加チーム数 1チーム (1チーム) 企業とのコラボ回数 50回 (50回) ⑤-3 市場流通可能な商品開発数 5商品 (5商品)	<b>評価指標の達成度</b> ① 自習率 0.6% ② 授業満足度 82% ③-1 全商検定3種目以上1級合格者 37名 ③-2 技能奨励賞 <b>算定中</b> ③-3 日商簿記検定2級合格 14名 ③-4 基本情報技術者試験合格 0名 ③-5 ITパスポート試験合格 1名 ③-6 建設業経理士2級受験者30名 (3月11日試験5月結果発表) ④-1 2/9現在3,699名 (67%) ④-2 2/9現在1.3冊 (52%) ④-3 2/9現在11回発行 (92%) ⑤-1 地域連携活動テーマ数 13テーマ (13テーマ) ⑤-2 ビジネスアイデアコンテスト1チーム (四国大学等主催) 5チーム (大阪商業大学主催) ビジネスプランコンテスト5チーム (日本政策金融公庫主催) 企業とのコラボ回数 50回 (50回) ⑤-3 市場流通可能な商品開発数 5商品 (5商品)	<b>評価</b> ① A ② A ③ C ④ E ⑤ E ⑥ D ⑦ E ⑧ B ⑨ A ⑩ A ⑪ A ⑫ A	<b>総合評価</b> B  (所見) ①早朝補習や検定前1週間に放課後補習等を実施し検定の合格者増に取り組んだ。全商検定の3種目以上合格者数は、30名代に減少した。日商簿記や情報処理関連の高度資格については目標に達することはできなかったが本年度から建設業経理士2級の学習を推し進め、教職員・生徒30名が3月中旬の検定試験を受験した。今後各種資格の取得に向かって、計画的に学習する環境の整備が望まれる。 ②校外徳商デパートでは、できるだけ多くの生徒に地元企業との連携を体験させ、地域に貢献する実践力を養うことに繋げている。企業関係者と交渉する能力は、校外徳商デパートを通じて確実に向上している。後半の徳商デパートでは、SPHの発表会と絡め、そごうの時計台前で、地元の特産物を使用し、商品開発に取り組んだ成果の販売に尽力し、地域貢献等を幅広くアピールした。 ③全国産業教育フェア秋田大会や徳島県ビジネスチャレンジメッセ等に積極的に参加し、本校が取り組んでいる多くの教育活動を広報することができた。 ④昨年度に比べて、図書館利用者数や一人当たりの貸出冊数が2/9現在で大きく下回っている。2年生の「朝読」の取り組み及び、各教科との連携を図り、図書館の利用を啓発していく必要がある。また、「ビブリオバトル」や「図書館祭」などの活動は、一過性のものとならないために昨年度からのテーマを引き続き踏襲した。 ④SPHの研究指定3年目になり、数多くの成果が	①可能な限り授業振り替えを実施することで近年の自習率は極めて低い数値に収まっている。一方で、教職員の負担軽減に向けた検討も必要と思われる。 ②相変わらず平日の自宅学習時間が0の生徒が、全体の3割以上を占めている。なかでも2・3年生では4割という状況にある。引き続き、授業への取り組み姿勢の改善を通して、授業内容の理解を促進し、授業満足度向上へとつなげたい。 ③高度資格については、授業や補習だけでは、限界がある。1年次から適切な課題を出すことにより、家庭学習の定着を図る。また、強い意欲を持たせるため1年次のオリエンテーションや学年会を通して資格取得の意義を理解させる必要がある。 ④図書館だよりの発行や読書会ビブリオバトルなどの特色ある取り組みを今後も継続したい。新入生に対する図書館利用オリエンテーションや図書館祭、お勧め本紹介といった読書委員活動をさらに活発化し、全校生徒の図書館利用促進に努めたい。
		<b>活動計画</b> ① 学校行事の精選を行うほか可能な限り振り替えを行い、授業時数を確保する。 ② 「学力向上」の実現のため生徒の実態にあった指導及び工夫改善を行う。 ③ 通常・検定前補習を充実させるほか個人指導を効果的に実施。  ④-1 図書館通信(推薦図書や新着図書案内)を充実させ、図書委員を通じてホームルームでの広報活動を行う。 ④-2 図書館通信をホームページに掲載する。学期に1回、推薦図書や新刊図書の案内を昼休みのTCS番組で放送してもらう。 ④-3 ミニ・ビブリオバトル・図書館祭を開催する。読書活動推進ポスター等を充実させる。	<b>活動計画の実施状況</b> ① SPH研究指定の最終年であったことに加え、国内外との交流が盛んになり、出張等による授業振り替えが非常に多い状況となっている。限られた時間枠のなかではあるが、可能な限り授業振り替えを実施した。 ② 職員それぞれが授業改善に努めた結果、目標値を達成することができた。 ③ 早朝補習を計画的に実施し、簿記検定前1週間に放課後1時間の補習を実施することにより、検定に合格する対策を図った。  ④-1 「算定中」 ④-2 HP掲載 9/15現在6回分 (50%) 6/21実施のミニ・ビブリオバトル結果を放送。 ④-3 ミニ・ビブリオバトル(6/21実施) 図書館祭(10/30~11/10実施予定)			

		<p>⑤-1 地域社会や企業等と連携した教育活動の実施  ⑤-2 ビジネスアイデアコンテストへの参加  課題研究における活動の実施  企業との連携による学習活動の実施  ⑤-3 地域企業との連携による商品開発の企画及び実施  ⑤-4 ICTや効果的な教授法等を導入した主体的・能動的な学びの実施</p>	<p>⑤-1校外徳商デパートを実施し商業高校生としてのプロデュース力をアピールした。ビジネス研究部の校内模擬会社ComComを中心に、地域や企業と連携した活動を積極的に展開した。全国産業教育フェア秋田大会や徳島県ビジネスチャレンジメッセ等に参加し、地域社会や企業等と連携した教育活動を積極的に広報した。  (展開活動)  ・美波町、牟岐町との連携  ・JICA・徳島県連携事業  ・地元企業Webページ作成支援  ・被災地支援  ・農工商連携6次産業化プロデュース事業  ・徳島県中小企業団体青年中央会提携事業  ・スタジアム学園祭  ・商品開発  ・ボランティア活動(インターアクト)  ⑤-2ビジネスアイデアコンテストへ1チーム参加し、地域企業から提示された「阿波番茶を地域に根付かせる」「コーヒーのブランド力を上げる」方策についてのビジネスアイデアを発表した。  ⑤-3地域企業と連携し、カンボジアの高校生と商品開発に取り組んだ。1月に実施した徳商デパートでは、カンボジアの高校生とともに販売活動に尽力した。  (開発した商品)  ・徳島レンコンつくね  ・カシューナッツタルト  ・徳島カレー  ・鳴門金時デニッシュ  ・パームシュガー生ドラ  ・カシューナッツフロランタン  ⑤-4商業科の授業の中で、ほぼ毎日ICTの技術を活用し、主体的に課題に取り組んだ。</p>	<p>得られた。SPHの研究指定とともに学校全体の教育活動等に与えたものは教多いが、職員と生徒ともかなり多忙になり資格取得等に影響があったかもしれない。  ⑤県内で開かれるビジネスアイデアコンテストに、1チーム参加した。本年度から県外のコンテストにも積極的に応募した。特にビジネスプランコンテストでは全国ベスト20と全国ベスト100のダブル受賞となった。ベスト100までに2テーマ以上が入賞している学校は、全国でも本校のみである。商業科の授業の中では、ほぼ毎日ICTの技術を活用した。ICTの技術の利用頻度がきわめて高いため、授業や放課後等各パソコン教室は飽和状態である。</p>	<p>・生徒にいろんな経験をさせる必要がある。  ・教室の環境整備が大切である。</p>	<p>⑤SPH事業によるホームページ支援活動や徳商デパートによる商品開発、農工商連携による6次産業化プロデュース事業による商品開発活動等について活発に展開できた。さらなる工夫・改善を行い商業の専門高校として特色ある学校づくりに努め商業教育の中心校として責務を果たしたい。授業や放課後等各パソコン教室で、ほぼ毎日ICTの技術を活用しているため、利用頻度がきわめて高く、パソコン教室は飽和状態である。パソコンが更新される部屋もあり、今後多面的に検討していかなければならない。</p>
--	--	---	--	--	--	---

【備考】 評価における「評定」の基準】 A：100%達成 B：80%以上達成 C：80%未満～70%以上達成 D：70%未満～60%以上達成 E：60%未満達成

[平成29年度 学力向上実行プラン]

重点課題	重点目標	自己評価			学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策
		評価指標と活動計画	評価指標の達成度	評価		
2 学習指導の改善	(全体レベル) (1) 生きる力を育むため、基礎・基本の確実な定着を図り自己教育力を高める。 (2) 確かな学力の育成を目指し、学習内容の厳選・創造及び指導方法の (3) 個性の伸長を図り、専門的な知識・技術を習得させ、スペシャリストへの道を拓く  (詳細レベル) ① 授業時数の確保 ② 授業技術の向上 ③ 各種資格取得の奨励 ④ 自己学習力の育成 ⑤ 実際の・体験的な学習の充実・発展	<b>評価指標</b> <b>【全教科共通】</b> ・ICTや効果的な教授法を導入して、生徒の主体的、能動的な学びを導く。 (国語)・課題提出率90%以上 ・漢字検定受検者180人以上 (地歴)・課題提出率95%以上 ・広い視野に立って物事を考察できるための基礎的知識と学力の定着を図る (公民)・課題提出率95% ・アクティブラーニングを随時取り入れる (数学)・課題提出率100% ・調査、SPI問題で6割正答 (理科)・単元毎にICTの活用 ・定期調査得点率65%以上 (保健体育)・救急救命法や妊娠、出産についての講義受講 ・生涯体育につながるような運動の基本技術の習得 (芸術)・演奏や作品の発表を2回以上行う ・発表では自己評価、相互評価を取り入れる (英語)・全商英検3級合格80%以上 ・ペア及びグループ活動等で自己評価、相互評価を取り入れる (家庭)・課題提出100% ・各単元においてアクティブラーニングが実施できるように心がける。	<b>評価指標の達成度</b> (国語)・課題提出率はほぼ100% ・漢字検定受検者は186名 (地歴)・課題提出率100%達成 ・基礎的知識と学力の定着がほぼ図ることができ、物事の考察ができた。 (公民)・課題提出率98%達成 ・アクティブラーニングは十分には取り上げられなかった。 (数学)・課題提出率98% ・ 調査SPI問題で6割以上正答。 (理科)・ビデオ教材、プレゼンテーションソフト等を活用した授業を実施した。 ・定期調査の得点率ではクラス間で差があり60～70%内で推移した。 (保健体育)・救急救命法及び妊娠・出産についての講義を行った。 ・運動の基本技術を習得することが出来た。 (芸術)・演奏や作品発表を各学期2回行い、学期末には自己評価、学年末相互評価を取り入れることができた。 (英語)・全商英検3級合格率はほぼ80%であった。ほぼ毎時間ペアやグループでの活動を取り入れた。 (家庭)・課題提出100% ・グループ学習、実験実習を取り入れ成果を共有できるようにしている。	<b>評価</b> 評定 総合評価 B  A A B B B A A A A	各科目毎に記載されている課題を明確に持ち、生徒にとって学習効果が高まるよう今後ともお願いしたい。  (公民)授業内容の精選を行い、時間を確保に努める。  (数学)誤答内容を精査し次回に活かす。  (理科)ICTの活用が内容理解につながる確証が得づらい。科目によって、ICTの利用頻度が異なる。  (芸術)演奏や作品発表は授業への動機付けになった。相互評価を次にどのようにつなげていくかが、今後の課題である。  (英語)全商英検及び実用英検の上級受検者への指導が今後の課題である。  TOEICなどにも挑戦させてはどうか。	教科会等を通して、課題に対する取り組み状況の情報交換を絶えず行う。また、授業改善を推進し、発展的な学習内容を扱うことにより、生徒が質問したり意見を言うなど主体的に取り組む授業づくりに心掛ける。  (数学)個別指導を重点的に実施すると同時に生徒間の活動も活発化させる。  (理科)年度終了時にアンケートを行うなど、生徒状況の把握に努める必要がある。  (家庭)家庭科で学んだことが実生活に結びついていくようにする。授業と家庭クラブ活動が連動できるように心掛けた指導を目指す。
		<b>活動計画</b> <b>【全教科共通】</b> ・生徒の実態に応じた授業法の工夫と研究授業・公開授業等による研鑽 (国語)・課題、ノートの点検と評価 ・漢検の受検準備をサポート (地歴)・準備物の徹底を図り、机間指導や提出物の点検等を通して学習状況を把握し、個々への指導を充実させる (公民)・課題、ノートの点検と評価 ・生徒が自己表現できるように指導を充実させる (数学)・課題、ノートの点検と評価 ・基礎問題の反復と細やかな指導を行う (理科)・視聴覚教材等の計画的利用 ・生徒の実態把握と、問題の精選 (保健体育)・救命法については欠席者にも後日指導を徹底 ・選択種目で自己の課題に応じた取り組みを行わせる (芸術)・個々の生徒の段階に応じた指導を行い、サポート (英語)・英検対策のサポート ・個々の活動への指導と支援 (家庭)・課題の点検と評価 ・実験実習を5/10以上取り入	<b>活動計画の実施状況</b> (国語)・グループでの調べ学習等で効果的な学習が行えた。課題等の確認により、学習習慣と基礎力の定着を図った。 ・1年生で漢検受検することで一定の受検者を開拓している。 (地歴)・授業中に必ず副教材を持ってきているか確認した。机間指導や提出物の点検を通して、基礎的知識の定着を図った。 (公民)・課題、ノートの点検と評価は的確にできたが、生徒が自己表現できるような指導は充実させられなかった。 (数学)・課題、ノートの点検を定期的実施した。基礎問題の反復練習において個別指導を実施した。 (理科)・特別教室を利用し、ICTの活用を努めた。調査前には、演習プリントを利用し、生徒の理解向上に努めた。 (保健体育)・救命法講義欠席者には、後日指導を行った。 ・種目の選択により、それぞれの課題に応じた取り組みを行わせた。 (芸術)・演奏課題、作品において、個々の生徒の段階に応じた指導を行いサポートすることができた。 (英語)・早朝補習(2,3年生)、授業(1年生)で問題集等を活用し、英検対策を行			

れるよう工夫し、授業での  
学びが実生活につながるよ  
う工夫する。

(家庭)・学びが実生活につながっているかど  
うかの確認は難しいが生徒たちの積  
極的な授業への参加は感じられてい  
る。

【備考】

評価における「評定」の基準】

A：100%達成

B：80%以上達成

C：80%未満～70%以上達成

D：70%未満～60%以上達成

E：60%未満達成

平成29年度学校評価総括評価表

重点課題	重点目標	自 己 評 価			学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策
		評価指標と活動計画	評価	総合評価		
3人権教育の徹底	(全体レベル) (1) 人権尊重を基盤とする普遍的な視点をすべての学校教育活動に位置づけた人権教育を推進する。これまでの成果を踏まえ、具体的な人権課題に即した個別的・普遍的なアプローチによって人権尊重の理念を深めるとともに、課題解決に向けた実践的な意欲や態度を培う。 (2) 学校、家庭及び地域社会と連携を図り、生徒の自主的活動を支援する中で、人権意識の高揚と人権問題を解決する実践力を養う。 (3) 学校、家庭及び地域社会と連携を図り、生徒の自主的活動を支援する中で、人権意識の高揚と人権問題を解決する実践力を養う。 (詳細レベル) ①教職員の人権意識の高揚を図る研修の充実 ②生徒の主体的な活動を促すホームルーム活動の創造 ③生徒の自主活動の活性化	評価指標 ①-1 教職員人権研修の実施回数 3回(3回) ①-2 校内公開人権学習の実施回数 3回(3回) ②人権問題ホームルーム活動の充実 具体的な個人人権課題に関する人権学習(全校および学年別)の実施回数 6回(6回) ③-1 校外の人権問題研修へのPEACH部の参加回数 7回(4回) ③-2 PEACH部員による全校生徒への研修報告回数 1回(1回) ③-3 女川小学校支援活動実施回数 2回(2回)	評価指標の達成度 ①-1 教職員人権研修の実施回数 3回 ①-2 校内公開人権学習 実施予定 3回 ②人権問題ホームルーム活動の充実 具体的な個人人権課題に関する人権学習(全校および学年別)の実施回数 6回 ③-1 校外の人権問題研修への人権部、有志生徒の参加回数 5回 ③-2 人権に関する映画会に関する全校生徒の感想文をまとめた内容および生徒の人権意識向上に関して人権部員が調査研究した内容を校内放送で発表した。 4回 ③-3 女川小学校支援活動実施回数 3回	評定 A A B	総合評価 A (所見) ①徳島県内で行われた高人研大会や県人研大会に多くの教職員が参加、研修を行った。また、約20名の教職員が不動地区での校外研修に参加した。 ②校内では、人権公開学習を学年ごとに実施した。 ③-1 人権部部員および有志生徒が、中部ブロック生徒部会に参加した。研修内容や家事都合により、参加が予定回数より少なくなってしまった。しかし、12月の人権交流集会には4名の人権部員が参加した。 ③-2 人権部員が調査研究した内容を全校集会および校内放送で4回発表。11月2日(木) 12月18日(月) 1月24日(水) 3月 (中旬予定) ③-3 女川小学校との交流は震災後継続的に行っている「さざなみ太鼓のユニフォームTシャツプレゼント」の他、環境活動などを引き続き活発に行っている。	①② 今後とも継続して取り組んでほしい。 ③ 生徒主体の活動による人権教育は大変効果的だと感じている。朝のSHR時や昼休みの校内放送などを通して人権意識を高めたい。 ③今年度も、人権部(PEACH)の活動部員数が少なかったため、校外活動への参加が厳しい。積極的な勧誘を行い、部員数の増加を図る必要がある。
		活動計画 ①-1 全教職員の人権意識高揚に向けた研修会の実施 ①-2 授業づくりや教職員の人権感覚を高揚させるための人権関係の資料の作成 ②授業研究を深めるための公開人権ホームルームの実施および事後の研究協議の実施 ③-1 校外で行われる中高生による人権研修への積極的な参加促進 ③-2 PEACH部員による全校生徒への研修報告の実施 ③-3 女川小学校支援の積極的参加と支援活動報告	活動計画の実施状況 ①-1 8月12日(木) 教職員(不動地区)研修会 <全職員・生徒対象> 10月12日(木) 人権に関する映画会 11月9日(木) 人権教育・家庭クラブ 合同講演会 ①-2 人権に関して調査研究した内容を教室掲示プリントにまとめるとともに、校内放送で発表した。 3回 ② 全学年 事前授業・公開授業・研究協議 実施 ③-1 「中高生による人権交流事業」 中部ブロック第2回生徒部会参加 ③-2 生徒の人権意識向上に関する内容を人権部員が調査研究し、まとめた内容を全校集会および校内放送で発表する。 ③-3 8月6日～11日徳島における交流支援活動、鶯敷町にて実施(女川小学校 教員3名 児童8名 本校生徒20名 参加) 7月～9月 さざなみ太鼓ユニフォームデザイン支援活動 2月13日～15日 環境活動交流(女川小学校6年生 女川小学校にて)			

【備考】 評価における「評定」の基準】 A：100%達成 B：80%以上達成 C：80%未満～70%以上達成 D：70%未満～60%以上達成 E：60%未満達成

平成29年度学校評価総括評価表

重点課題	重点目標	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策		
		評価指標と活動計画	評価				
4 生徒指導の徹底	(全体レベル) (1)全教職員の共通理解のもとに、家庭との連携を密にし、信頼感に満ちた生徒指導を推進する。 (2)基本的な生活習慣を確立させ、道徳・規範意識を高め、責任を重んじる態度の育成に努める。 (3)部活動を奨励し、連帯感や愛校心を培い、社会人として望ましい資質・態度を育成する。 (詳細レベル) ①商業高校生としての美しい振る舞いの育成 ②基本的な生活習慣の確立 ③規範意識と道徳的考え方を深化させ、いじめのない豊かな人間関係を醸成 ④部活動を通じた人身心の調和のとれた生徒の育成及びあらゆる機会でのリーダーシップを発揮できる生徒の育成	<b>評価指標</b> ①-1 生徒指導理解率 教職員 100%(100%) 生徒 100%(100%) ①-2 身だしなみ達成率 100%(100%) ①-3 あいさつ実施率 100%(96%) ----- ②-1 皆勤賞の取得率 50%(42%) 精皆勤賞の取得率 75%(71%) ②-2 遅刻率 1.0%以下(0.4%) ----- ③校則等の遵守意識率 100%(100%) ----- ④-1 部活動加入率 90%(92.8%) ④-2 壮行会の開催 4回(4回) ④-3 地域や中学生との交流会の実施 20部活動(10部活動) ④-4 全国大会・四国大会出場部数 20部活動(15部活動)	<b>評価指標の達成度</b> ①-1 生徒指導理解率 教職員 100% 生徒 94% ①-2 身だしなみ達成率 98% ①-3 あいさつ実施率 94% ----- ②-1 皆勤賞 45%(1月31日現在) 精皆勤賞 76%(1月31日現在) ②-2 遅刻率 0.3%(1月31日現在) ----- ③校則等の遵守意識率 93% ----- ④-1 活動加入率 96.0%(90%) ④-2 壮行会の開催 4回 ④-3 地域や中学生との交流会の実施 20部活動 ④-4 全国大会・四国大会出場部数 19部活動	<b>評定</b> B ----- B ----- B ----- A	<b>総合評価</b> B ----- (所見) ①身だしなみ・挨拶等はきちりできており、来客者からも高い評価を得ているが、やや昨年度より達成率が低下している。今後とも指導を徹底するとともに、美しい振る舞いのできる人間育成に努める。 ②皆勤・精勤・遅刻率ともに昨年度と比較して向上し成果を上げた。今後とも校門前指導等を徹底していく。 ③学校全体に高い遵守意識が備わっているが、昨年度より意識率は低下している。今後とも、学年集会・ホームルーム活動・授業・部活動等学校生活のあらゆる機会を通して、集団生活や社会生活を送るために必要な礼節やマナーを身に付けさせる。また、各学年と連携し、生徒の状況把握に努め、啓発活動を定期的に行う必要がある。 ④1年生の入部率100%は本年度も達成することができた。部活動ごとに中学生との交流会を計画し行った。	・他校と比べると、素晴らしい成果を出している。 ・目標指標が高すぎるのではないか。しかし今後も、100%を目標に指導してほしい。	①③ 引き続き、HR活動やSHR時を利用し、人として望ましい振る舞いや行動について考えさせる時間を持つ。また、保護者との連携を図り、個々の生徒に応じたきめ細かい指導を行う。 ② 今後とも皆勤・精勤率の向上に努める。自己の健康管理の重要性を認識させ、絶えず注意を喚起する指導を徹底させたい。 ④ 各部において、今後も切磋琢磨し、全国大会出場部数を増やしていきたい。部活動の成績は、学校全体としての連帯感や愛校心を培うことに繋がってくる。より一層四国・全国大会等の成績が伴うよう取り組んでいきたい。
		<b>活動計画</b> ①-1 あらゆる機会を通して、美しい振る舞いが社会人として必要な資質であることに気づかせる ①-2 全職員による身だしなみ指導を徹底し、生徒の意識を深化させる。 ①-3 あらゆる場面で、好感の持てるさわやかなあいさつが交わされるように指導する。 ②-1 家庭と連携し基本的な生活習慣の育成を促すと同時に、登校指導や月間の遅刻回数が2回を上回らないように目標を設定し、時を守ることに意識を高めさせる。 ②-2 遅刻累積の多い生徒に対して、保護者を交えて面談を実施する。 ③ 面談等で生徒の実態を把握し、学年団・各課の連携のもと日常的に指導する。 ----- ④-1 部活動加入の継続を図る。 ④-2 四国・全国大会に向けて壮行会を開き士気を高める。 ④-3 部活動単位で必要に応じて積極的に地域や中学生との交流会を実施する。 ④-4 四国・全国大会の出場に向けて活動をさらに活性化する。	<b>活動計画の実施状況</b> ①-1 HR活動や各種の集会をとおして、商業高校に学ぶ生徒としてより良い社会となるための基本的な考え方について指導し、理解を促した。 ①-2 各学期および学校行事など機会を捉えて全学年の指導を徹底した。身だしなみ指導実施回数(6回) ①-3 登下校指導やHRなどをとおしてさわやかな挨拶をかわすよう指導した。 ②-1 保護者への連絡を密にするなど連携を図った。また、少数であるが遅刻を重ねる生徒がおり、家庭と学年主任・担任が今後の対策を協議した。 ②-2 遅刻指導については、月3回以上遅刻した生徒に対し、遅刻指導を行った。次年度に向け各学年主任と効果的な指導方法について協議をしている。 ③ あらゆる教育活動をとおして道徳的な考え方や規範意識を育むよう、指導を重ねた。駐輪場の清掃時や各クラスの指導の場において啓発した。				

【備考】 評価における「評定」の基準】 A：100%達成 B：80%以上達成 C：80%未満～70%以上達成 D：70%未満～60%以上達成 E：60%未満達成

平成29年度学校評価総括評価表

重点課題	自己評価	評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策		
		評価指標と活動計画	評価指標の達成度			評定	総合評価
5 進路指導の充実	<p>(全体レベル)</p> <p>(1)自己の特性を理解させ、自らの在り方・生き方を考えさせる進路指導の充実を図る。</p> <p>(2)望ましい勤労観・職業観を育成し、生徒の希望・能力・適性に応じた進路の実現を図る。</p> <p>(3)進路開拓を推進し、進路先の確保に努める。</p> <p>(詳細レベル)</p> <p>①進路指導のガイドライン設定と教職員への周知</p> <p>②進路説明会の開催と進路相談の計画的な実施</p> <p>③進路情報の迅速・確実な提供</p> <p>④個別指導の充実</p> <p>⑤個性・能力の伸長と適切な進路サポート</p> <p>⑥求人獲得と職場開拓</p>	<p><b>評価指標</b></p> <p>①対教師ガイダンス・研修会実施回数 17回 (15回)</p> <p>②校内進路説明会・相談会実施回数 40回 (38回)</p> <p>③進路資料室の利用クラス 43クラス (41クラス)</p> <p>④進路実現に向けての生徒の達成感 92% (91.1%) 進路決定に対する満足度 95% (94.1%)</p> <p>⑤始業前レッスン実施率 100% (100%)</p> <p>⑥-1 訪問企業数 180社(168社) 会社見学 50社 生徒90名 (47社 85名)</p> <p>⑥-2 就職内定率 100% (99%)</p> <p><b>活動計画</b></p> <p>①各学年と就職課・進学課との情報交換会を実施 教師対象の進路研修会・勉強会の企画・実施</p> <p>②校内進路説明会・相談会を計画的に実施 外部講師による就職講演会の実施</p> <p>③利用しやすい進路資料室作りの実施 生徒・担任・保護者への迅速かつ正確な情報伝達</p> <p>④進路実現に向けて生徒の意識付けをするガイダンスを実施</p> <p>⑤早朝補習の実施</p> <p>⑥-1 求人獲得とミスマッチ防止を図るための企業訪問を実施</p> <p>⑥-2 進路指導における最重要課題に位置づけ、本校の教育活動の全体を通じて展開</p>	<p><b>評価指標の達成度</b></p> <p>①対教師ガイダンス・研修会実施回数 20回実施</p> <p>②校内進路説明会・相談会実施回数 32回実施</p> <p>③進路資料室の利用クラス 3学期末現在36クラス</p> <p>④進路実現に向けての生徒の達成感 95.4% 進路決定に対する満足度 96.3%</p> <p>⑤始業前レッスン実施率 3学期 実施率100%</p> <p>⑥-1 訪問企業数 237社 新規求人開拓数 6社 会社見学71社 生徒156名</p> <p>⑥-2 就職内定率 99%</p> <p><b>活動計画の実施状況</b></p> <p>①3年生への必要な情報提供および生徒状況の把握と連携は的確に行うことができた。低学年の効果的な進路指導を継続させたい。</p> <p>②生徒への進路説明会・相談会はガイダンス行事および授業での進路室利用をさらに充実させたい。</p> <p>③2年生の冬休み前の進路室利用が増加した。</p> <p>④進路実現満足度を上げるために、ミスマッチ防止の事前研究体制をさらに整えること、また保護者との意思疎通をさらに図る必要がある</p> <p>⑤4月～1月末まで実施</p> <p>⑥-1 5月より就職担当教員企業訪問、現在237社訪問。</p> <p>⑥-2 生徒の会社見学を71社実施。</p>	<p>評定</p> <p>A</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>B</p>	<p>総合評価</p> <p>B</p> <p>(所見)</p> <p>①3年生学年団への必要な情報提供および生徒状況の把握と連携は的確に行うことができた。 1・2年生の段階的な進路指導のあり方を今後は強化させる必要がある。</p> <p>②生徒への説明会・相談会はガイダンス行事および授業での進路室利用をさらに充実させたい。</p> <p>③進路ガイダンス後の進路室利用が増えた。特に2年生の意識向上が顕著であった。</p> <p>④進路実現満足度を上げるために、ミスマッチ防止の事前研究体制をさらに整えること。また保護者との意思疎通をさらに図る必要があると感じた。</p> <p>⑤補習を通して、適切な時期に適切な指導を行うことを継続させたい。</p> <p>⑥企業訪問・新規開拓の人員確保に検討の余地がある。生徒の会社見学は、ミスマッチ防止の点において大変有効であった。就職内定については、学校・生徒・保護者・関係諸機関との連携を取りながら、今後も100%を目指したい。</p> <p>⑥入学後からの系統的な進路指導体制のさらなる充実に向けて取り組むことが必要である。進路希望調査と面談の充実や、早期からの進路研究への意識付けを各学年団と連携を取りながら進めたい。</p>	<p>・英語（語学）教育の充実は、進学就職に必要であるので、充実させる必要がある。</p>	<p>①②③ 就職課・進学課が中心となり、生徒が早い時期から目標を定め、しっかりとした実力をつけられるよう、今後とも進路指導の充実を図っていく。</p> <p>④ 保護者との意思疎通をさらに図るため、学年ごとに面談・保護者会を充実させたい。</p> <p>⑤⑥ 部活動と検定取得の両立や指導体制の充実、また生徒の希望と適性を見極めた適切な進路指導に心掛けたい</p>
		<p>【備考】 評価における「評定」の基準 A：100%達成 B：80%以上達成 C：80%未満～70%以上達成 D：70%未満～60%以上達成 E：60%未満達成</p>					

平成29年度学校評価総括評価表

重点課題	重点目標	自己評価			学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策
		評価指標と活動計画	評価指標の達成度	評価		
6 情報化・国際化への対応	(全体レベル) (1)施設・設備の充実を図り、情報活用能力と情報モラルの育成を図る。 (2)校務のICT化を推進し、教職員間での情報共有とホームページの充実を図る。 (3)自国の文化を正しく認識し、異文化との相互理解を深め、国際社会に生きる資質を養う。  (詳細レベル) ①ICT環境整備の推進と情報モラルの育成 ②ICTの活用により校務の効率化と情報の共有化 ③自国の文化及び異文化への理解	<b>評価指標</b> ①クリアデスク実施率 90% (90%) セキュリティポリシー遵守率 100%(100%)	<b>評価指標の達成度</b> ①クリアデスク 90% (90%) セキュリティポリシー遵守率 100%(100%)	① A ② A ③ A	総合評価 A  ①クリアデスクが十分ではない教員もいるが、概ね良好である。 ②全教員がICTの活用ができています。また、ウイルス発生は0件であり、高いセキュリティを保つことができています。  ③ マスコミでも報道されており、素晴らしい取り組みであると思う。国際化の進展に対応すべく、今後とも宜しくお願ひしたい。	①② 今後も機会ある毎に、繰り返し注意を喚起し、情報漏洩防止に努めたい。  ③ ドイツとの国際交流は、予算確保が依然として課題である。しかし来年度、ぜひとも相互訪問が実現できるように工夫し、異文化を理解し異文化を尊重する態度や能力を持った生徒を育成していきたい。
		<b>活動計画</b> ①-1 情報セキュリティポリシーにのっとり、情報の漏洩防止を図る。 ①-2 校内情報セキュリティの強化に向けたシステムの再構成を企画する。 ①-3 クリアデスク推進日を設け、机上の整理、情報資産の取り扱い向上を図る。 ②-1 職員用サーバを活用し、校務の効率化と情報の共有化を推進する。 ②-2 職員用サーバの効率的運用に向けた再構成を企画する。  ③カンボジア・・・生徒の渡航1回 生徒受入1回 ドイツ・・・生徒受入1回	<b>活動計画の実施状況</b> ①-1 情報セキュリティポリシーを改訂し情報の漏洩防止につながっている。 ①-2 校内情報セキュリティの向上のためパスワードの強化などセキュリティ強化を図っている。 ①-3 クリアデスクの呼びかけを実施し、情報資産の取り扱い向上につながった。 ②-1 職員用サーバが新しくなり、共有フォルダ等の活用度は高くなっている ②-2 職員用サーバの更なる効率的運用に向けた準備を行っている。			

【備考】評価における「評定」の基準】 A：100%達成 B：80%以上達成 C：80%未満～70%以上達成 D：70%未満～60%以上達成 E：60%未満達成

平成29年度学校評価総括評価表

重点課題	重点目標	自己評価			学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策
		評価指標と活動計画	評価	総合評価		
7 健康・安全・防災 環境・主権者教育 の推進	(全体レベル) ①生涯にわたって心身共に健康であるための基礎的な身体作りや食習慣を身につける。(食育) ②自他の生命を尊重し、健康の保持増進と安全・防災意識の高揚を図る。 ③整理・清掃・整頓・清潔(4S)を徹底して環境美化に努め、奉仕する態度や公共心を養う。 ④学校版環境ISO認定校として実践を推進し、環境問題への関心を高める。 ⑤有権者として、自らの判断で適切に権利を行使できる政治的教養を身につける。	評価指標 ①-1 食に関するアンケート調査 年1回(1回) ①-2 3年生を対象として卒業前に「地産地消の料理講習会」を実施する。 年1回(1回) ②年に2回PTA総会と文化祭のときに食に関する展示を行い生徒・保護者への啓発を行う。 ①-3 保健だよりの発行12回(10回) ①-4 ホームルーム活動 年1回(1回) ①-5 飲酒・喫煙・薬物乱用防止授業の実施 年1回(1回) ①-6 保健室利用者数(相談対応含む) 年800名(492名) ①-7 心肺蘇生法講習会 1回(1回)	評価指標の達成度 ①-1 実施している。調理実習などに活用している。 ①-212月に予定している。 ②5月のPTA総会で実施 10月の文化祭で実施 ①-3 保健だより発行 12回 ①-4 ホームルーム活動 1回 ①-5 薬物乱用防止教室 1回 ①-6 保健室利用者数 640名3/13 ①-7 心肺蘇生法講習会 1回	評定 A	A (所見) ①-1 食に関するアンケートを実施、アレルギー等の確認を行い、3年生は調理実習等授業に生かす2年生では修学旅行の食事に生かすことができた。 ①-2 女子栄養大の社会人講師を迎えて3年生22名が県産の食材を使った料理を学んだ。(地産地消)年間を通して、フードデザインを選択している生徒が中心となり、環境に配慮した持続可能な食生活について展示、啓発を行った。 ①-3~7 生徒が抱える健康問題に対して、関係機関と連携しながら、各種講演会や授業等を実施し、適切に対応した。 ③環境チェックを行うことで教室環境を確認することができ、不備な点を修正することができた。 ①-1 生徒の食習慣の実態を把握し、食に関する自己管理実践能力を育成するように調理実習に生かした。 ①-2 4年連続で全員出品することができた。入賞することができなかった。いろいろな野菜の食べ方を考えられるような創造性が働くようなヒントを探し授業に取り入れた。 ②夏休み中に熊本市を訪問したことを(生徒4名)パワーポイントにまとめて発表した。被災地を訪問して自分自身の驚きや学びを発表することができて良かった。 ④-1,2ゴミの分別、節電・節水を各クラスで呼びかける機会を設けた。身近なクラスメイトが呼びかけることによって気付くところがあったと思う。しかし、電気・水道の使用量は数ヶ月分まとめとなるので意識が定着するのは難しい。	・校舎の耐震に問題は無いのか、十分に訓練し災害に備えてほしい。  ①食生活への関心が高いということを活用して地産地消や食品ロスを考える食育だよりを計画したい。 本年度の状況を踏まえ、きめ細やかな指導を継続して行う必要がある。  ①生徒が食生活を見直せるような講演会を考え実施したい。
	(詳細レベル) ①健康教育の充実 ②安全・防災意識の高揚と実践力の育成 ⑤主権者教育の充実	②防災啓発活動の実施 年2回(2回) ③清掃状況の点検と改善 年6回(6回) ④-1 ゴミ分別処理の点検常時指導(常時) ④-2 節電・節水の推進を図る。毎月の使用量を廊下に掲示(常時) ⑤主権者であることの意識醸成率 70%	②9月1日防災アピール実施 12月に実施 ③清掃活動6回実施 ④-1常時担当教員が指導している ④-2常時廊下に掲示しているが更新が遅れている ⑤講演会・模擬投票等を行った。意識醸成率70%を達成した	A  B  A		
		活動計画 ①-1 生徒の食習慣の実態を把握し食と健康、食に関する自己管理実践能力を育成する。 ①-2 食の自立に関する啓発活動を行う。 ①-3 健康に関する情報発信を行う。(職員生徒への配布及びホームページ掲載) ①-4 生徒の課題である健康問題を取り扱い、生活の改善を図る。 ①-5 1年生で喫煙・飲酒・薬物乱用防止授業を行う。 ①-6 健康・安全に関する意識を高め、けがの予防やメンタルヘルスを保つ取り組みを行う。 ①-7 講習を通じて救命についての意識、実践力を育成する。 ②防災クラブ(生徒会・家庭クラブ)が中心となり、全校生徒を対象として啓発活動を行う。 ③環境委員が清掃状況チェックを行い、自己評価し改善に生かす。 ④-1 環境委員がゴミ分別状況調査を行う。 ④-2 環境委員会を中心に節電・節水を呼びかける。 ⑤ホームルーム活動や主権者教育に関する資料の配付等により、自らがより良い国家を作り上げる主権者であることを気づかせ意識を深化させる。	活動計画の実施状況 ①-1「朝食を食べよう」という啓発として女子栄養大学の朝食レシピを取り寄せ全校生徒に配布した。 ①-2野菜を使った料理コンクールへの参加。3年生全員が出品した。 ①-3 健康に関する情報発信を行った。(職員生徒への配布及びホームページ掲載) ①-4 ①-5 2/13に警察署スクールサポーターを講師に迎え、薬物乱用防止教室を開催した。 ①-6 保健指導を通して、健康・安全に関する意識を高め、けがの予防やメンタルヘルスを保つ取り組みを行った。 ①-7 1学年を対象とし、2/14に保健の授業で実施した。 ②9月1日の防災の日に全校生徒に対して防災アピールを行い、家族での防災対策を話し合うように呼びかけた。 ③1学期には2回行った。身の回りの環境や節電・節水を気遣えるように定期的実施していきたい。		・清掃が良く行き届いている。引き続き校内美化に向け頑張してほしい。	②身近な防災、減災を目指した方法や活動を啓発できるように考えたい。  ④-1,2ゴミの収集場所を徹底していく。新年度より水・電気の使用量をグラフにして教室掲示を行い節水・節電を呼びかける。

【備考】評価における「評定」の基準】 A：100%達成 B：80%以上達成 C：80%未満～70%以上達成 D：70%未満～60%以上達成 E：60%未満達成